

チョコレート の 裏側

白山市立美川中学校 三年 初鳥 幸菜

みなさんは、「ガーナ」という国を知っていますか。知っている方も多いと思いますがチョコレートで有名ですよ。いや、正式にいうとチョコレートの原料となるカカオ豆の生産地として有名です。では、そのカカオ豆は、一体誰がつくっていると思いますか。もちろん専門の農家の方がいます。しかし、実は子どもも働かされています。その中には、私より小さい5歳くらいの子もいるそうです。皆、家族を守るために必死で働いています。

私はその事実を知ったのは、学校の英語の授業でした。その日は、フェア

レードという貿易について勉強していて、その中でガーナの現状について知りました。授業の内容や自分で調べていく中で、印象に残った事が二つあります。

まず一つは、働いている子どもたちの多くは学校に行きたくても行けず、炎天下の中、強制労働させられていることです。そのことを知って私は、「なんでそんなに勉強したいのか。そんなに楽しいものじゃない」と不思議に思いました。でも、よく考えてみると、それは恵まれている自分だから思うことなんだと感じました。やりたくもない仕事をやらされている子どもたちにとって学校は、友達がつくれて勉強もできる憧れの場所のほずです。子どもたちの気持ちになって初めて、価値観の違いに気が付きました。

もう一つは、カカオ豆からチョコレートが作られている事を子どもたちが知らないことです。私はてつきり、収穫したカカオ豆がチョコレートになることを知っていて、仕事をしているのかと思っていました。でも実際は全く違いました。子どもたちは、カカオ豆が何になるかなど知らずに収穫しています。当然、チョコレートなど聞いたこともなく、食べたこともないので。これを知って、罪悪感で胸がしめつけられました。「かわいそう」と同情する反面、今まで好き嫌いしていた自分が恥ずかしくて、情けなくなりました。

さて、ガーナの現状を知ったみなさんは、これからどうするべきだと思いますか。「何かしようと思うけど自分だけやってもなあ」と考えている方は決して少なくはないはずです。「自分一人がやっても変わらない」「一人分の力なんてたかが知れてる」と私も思っていました。でもこれって、他人に甘えているだけではないでしょうか。

ガーナだけでなく、世界の幸せのために、私がすべきこと。それはとても限られているし、どれが正解かなんて分かりません。でも、やらない限り、何も始まりません。そこで私ができることは「感謝」することだと思います。恵まれない子どもたちがいる中で、自分は生かされている、ということに感謝していきたいです。世界中の人々が感謝の気持ちを忘れず、この問題と向き合う。それこそが、解決への第一歩ではないでしょうか。

甘いチョコレートの裏側には、ガーナの苦しい問題がどこまでも広がっているのです。